



SIGNIS JAPAN ニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
 代表：土屋 至
 発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42
 聖パウロ女子修道会内
 TEL 03-3479-3941 E-mail：info@signis-japan.org
 http://signis-japan/org/

聖母被昇天をお祝いいたします。

8月、平和について考え、平和を求めて祈る月です。広島に原爆が投下された6日は、カトリック教会の典礼では「主の変容」の祝日にあたり、この日から聖母の被昇天を祝う15日まで、「日本カトリック平和旬間」が行われました。各教区で、祈り、講演会、巡礼などが企画されました。被爆74周年を迎える長崎教区では、広島教区が主催する平和行事に参加して広島とつながり、さらに17日からは、国内で唯一の地上戦を経験した沖縄とつながる平和学習会が高校生に向けて行われます。戦争を体験した高齢者が少なくなっていく中で、世界の苦しみに目を向け、平和を築くためにどうしたらよいか、祈りのうちに考えることは大切です。若い人々に負けず、わたしたちも平和を考える輪を広げましょう。



北仙台教会

第43回日本カトリック映画賞 授賞式&上映会 6月22日（土）なかのZERO大ホールにて開催されました！

今年も「日本カトリック映画賞授賞式&上映会」を無事終えることができました。ご来場くださった皆さま、当日会場運営にご協力くださったボランティアの方々、各方面でチケット販売にご協力くださった方々にあらためて御礼を申し上げます。

私たちシグニスジャパンはとても小さな団体で、スタッフも資金も乏しく、自分たちだけでこのような授賞式&上映会を開催することはとてもできません。多くの方に支えていただきやっと開催できています。今回はボランティアのお仕事についていくつかご紹介させていただきます。

まず思い出すのは『あん』（第40回受賞作）のどら焼き売りです。映画の内容に合わせて、私たちは晴佐久神父作の「平和の天使」を焼き印にしたオリジナル「どら焼き」を作りました。ボランティアの方々は発注ミスか？と思うほどの数を見事に売り切ってくださいました。「どら焼き、いかがですかあ？」入り口ホールに響く売り声。ここはカトリック映画賞授賞式の会場なのか、はたまたどこかの物産展なのかと間違えるほどの勢いでした。ゲストの樹木希林さんの存在と共に忘れられない思い出となりました。

ホール入り口、階段付近のご案内、誘導もボランティアの方をお願いしています。毎年ボランティアを引き受けてくださる方も多く、お年寄りや、お体のご不自由な方など、「早く入れて欲しい」、「立っていて疲れた」などの希望に臨機応変に対応してくださる様子は、もはや熟練の技！！改めて感謝いたします。

ひとりでも多くの方においでいただきたい私たちですが、「席がないわ！」とならないために、入り口でカシャカシャと入場者数をカウントしてくださるのもボランティアの方です。『あん』、『この世界の片隅に』と話題作が続き、前売り券も多く販売されていて、スタッフは冷々しながらも、ボランティアの正確な入場者数のカウントに毎回助けられています。

そして忘れてはならないのは、手話通訳、要約筆記のボランティアの方たち。私たちが「いつかは実現したい」と夢見ていた聴覚障がい者へのバリアフリー上映。映画本編には字幕付き作品も増えてきましたが、授賞式、監督と顧問司祭との対談など、全てを楽しんでいただけるようになったのは、手話通訳の方のご尽力によります。また、「手話通訳だけでなく、要約筆記も」と別のボランティアを紹介くださり、『あん』から始まった要約筆記。スクリーンに打ち出されていく対談の言葉を初めて見た時の驚きと感動は、忘れることができません。この方たちのお手伝いがなければ、現在の日本カトリック映画賞授賞式&上映会はできなかつたと思います。心からの感謝を申し上げます。

またパネル展示などの力仕事、避難誘導係にも、休日を返上して毎年お手伝いくださる方々がおられます。感謝とともに年に一度の再会を楽しみにしています。

チケット販売では、いろいろな団体の方にもお手伝いを頂いています。「ひとりでも多くの方にキリストの福音を届けたい」という同じ思いでご協力くださるのだと思います。さらに毎年のように販売を受け入れてくださる教会の方々、またスタッフが何うことができなくても、ご自分で前売り券の販売を引き受けてくださる方が何人もいらっしゃることに、心から感謝しています。

この他にも多くのボランティアの方々お力で、毎年日本カトリック映画賞授賞式&上映会は開催されています。本当にありがとうございます。

「見に行くだけでなくボランティアもしてみようかな」と思われた方、ぜひ、一度体験してみませんか？お待ちしております。（映画チーム 大沼）



舞台担当の準備

授賞式&上映会を支える要約筆記

要約筆記(PC 通訳) ボランティアのおひとり、田中留美子さんに当日の様子を伝えて頂きました。

日本カトリック映画賞授賞式・上映会でのご奉仕には、第40回の『あん』のときから関わっています。今年で4年目です。

私たち要約筆者(パソコン通訳)は舞台下の一角で、パソコン画面とにらめっこをしながら作業をしています。要約筆記用のフリーソフトを使って、全員のパソコンをつなげています。その場で聞こえたことを「手分け」して自分のパソコンに入力し、表示用パソコンからプロジェクターを通して壁に投影しています。



要約筆記準備中

その「手分け」の仕組みですが、多くは2人一組で入力をします。例えば「本日はお足元の悪い中、遠方からお越しいただきありがとうございます。」などの言葉を、入力者のひとりが「本日はお足元の…」と入力している間に、もうひとりは「遠方からお越しいただき…」と入力し始めるのです。バトンリレーみたいです。



こちらは手話通訳準備中

お互いの入力部分はモニター画面で確認することができますので、重なることがないように、順番よく表示用パソコンにまとめます。瞬時の作業ですから失敗もあります。「足元のあるいなか」なんて入力してしまって慌てたり、「お越し」が「起こし」「お腰」なんて変換され続けて、心の中できゃあきゃあ騒いだり、手間取ることも多いです。相手の入力を見ながら「ああ、手こずっているな」と思うだけでフォローする余裕がないことしばしばです。ですので、少しでも慌てることのないように「ありがとうございます」を短縮して単語登録したり、「晴佐久新婦様」とならないように機械に覚えさせたり、夜な夜な自宅で水面下の工夫もしています。ただ、このご奉仕はチームワークでできるので、私はとても好きです。スピードに追われて殺伐としがちな状況でも、仲間が一緒だから会場の皆さんと同じ感動を味わうことができるのです。

また、この授賞式に呼ばれたことで、シグニスジャパンの方々をはじめ多くの方々の舞台裏のご苦労を知ることができました。障害者への細やかな配慮、式典を支える笑顔のチームワークも拝見することができました。そして、そのお仲間に加えていただけたことが、私にとっては何よりの幸せです。

(田中留美子さん / カトリック茂原教会)



第43回 日本カトリック映画賞 授賞式&上映会

「ぼけますから、よろしくお願いします。」 監督 信友 直子

信友監督を囲んで全員で記念撮影
みなさま、ありがとうございました！

賛助会員募集

一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

わたしたちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で行っています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。

年会費 3,000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。

どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org

会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋 至